

機関番号：34605

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2010

課題番号：21730558

研究課題名（和文）自死遺族支援のあり方に関する多元的研究

研究課題名（英文）A multifactorial study on psychosocial support after bereavement by suicide

研究代表者

良原 誠崇（YOSHIHARA MASATAKA）

畿央大学・教育学部現代教育学科・助教

研究者番号：00514134

研究成果の概要（和文）：本研究では自死遺族のサポートグループの様々な心理的力動の把握を試みた。その結果、グループのメンバーは具体的な支援と経験の共有という 2 つの志向の組合せから参加を試みていた。また参加頻度の変数も加えると遺族を 9 つのタイプに分類できることができた。グループの世話役も参加者との相互作用により、自己物語の変容が認められたが、一方で二次受傷やバーンアウト等の問題が示唆された。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to show the psycho-dynamics of the support group for the bereaved by suicide. In conclusion, support group members sought to participate by the combined orientation of getting actual supports and sharing of their grief. They were also classified into nine categories based on the orientation and their participation frequency. On the other hand, it is recognized that the self-narratives of support group facilitators transformed by the group interaction, although they might be suffered from secondary traumatization or burned out.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：臨床心理学

科研費の分科・細目：

キーワード：自死遺族 支援 多元的研究 面接調査 コミュニティ心理学 臨床心理学 サポートグループ セルフヘルプグループ

## 1. 研究開始当初の背景

近年の日本における自殺者の増加現象は、同時に派生する自死遺族の存在にも光を当てる結果となった。平成 18 年に施行された自殺対策基本法の中においても自死遺族支援が中核の 1 つに位置づけられ、さらに平成 19 年の「自殺総合対策大綱」においても、9 つの基本的な重点施策の 1 つとして、自殺者の親族等に対する支援を掲げている。

公的な施策として自死遺族支援が取り上げられたことは、これまで草の根で支援活動を行ってきた立場にすれば画期的なことであるかもしれないが、特に先行する海外での遺族支援の経緯と比べると、日本のそれは独特なものとして位置づけられよう。

## 2. 研究の目的

本研究は、近年急速に増加している自殺に

よって近い人を亡くした遺族（以下、自死遺族）の有効なソーシャルサポート基盤の1つとして位置づけられているピアサポートグループを中心に、本邦独自の自死遺族支援のあり方に関するものである。

具体的には、自死遺族支援に実際に携わっている人々を対象とし、かれらの文脈と相互行為を実証的に明らかにしていくことを第一の目的とする。第二に、そうした文脈をもちつつ、実効的な自死遺族支援の方策とは何かについて検討するために、支援者の精神的健康とソーシャルサポート、支援の継続動機の関連を明らかにする。

### 3. 研究の方法

- ① すでに研究代表者がオブザーバーとして関与している自死遺族支援ネットワークに引き続きオブザーバーとして関与し、定期的な会合において各支援団体の状況や諸問題について開示しながら、互いに意見交換をする様子について、自身も関わりながら観察を行っていく。これらはフィールドノーツにまとめていくことで、ネットワークや支援組織の中で生じている問題を同定し、同時並行して行われる支援者へのインタビュー調査の質問項目としても取り上げていく。
- ② 自死遺族支援のネットワークへの関与の形態の違いを1つの属性として理解しながら、個々の自死遺族支援者へのインタビュー調査を行っていく。ある程度長期的にコミットしている支援者も増えてきており、さらに時間的視点をもつことで、支援者個人の物語をさらに豊かに記述することに務めながら、そうしたネットワーク組織の関与の在り方が個人の物語にどのような影響を与えているのかについて理解する。また、良原（2009）の研究では不十分だった、支援団体が主催する自死遺族同士の分かち合いの場における参加者との相互作用についても着目した聞き取りを行っていく。

### 4. 研究成果

- ① A 県内において行政が後援している自助グループや自殺対策に関する行政職研修会等において参与観察し、支援者の自己物語の内容に関わらず、自死遺族との交流を通じて二次受傷やバーンアウト、逆転移が生起されるような問題が内在していることが示唆された。したがって、支援者の調査においてはこうした側面を十分に配慮しておく必要性が考えられた。
- ② 自死遺族支援の従事者9名との面接調査を実施することができた。そのうち3名は良原（2009）においても調査協力しており、当時の語りと比較しながら面接を

実施した。そこでは支援の場における相互作用性が多重に絡み合うほど、支援者の物語に影響を与えることが示唆された。またそうした物語の“展開”の促進は、支援者の生活世界との状況が大きく影響しており、部分的には良原（2009）の物語的構成モデルを確認することができた。

- ③ 2010年度は、前年度から引き続き、1) 自死遺族支援に従事する者を対象にした半構造化面接調査と、2) 単一の自死遺族サポートグループを事例にした参加者の志向性の定量的分析を行った。1) に関しては、支援者業務継続尺度（良原ら2009、良原ら2010）を自死遺族支援者に適合するように改良化を試みた。2) については、6年間のグループの参加者のグループへの志向の変化について分析を行い、昨年度の分析の結果と比較して、以下のような特徴が見出された。初回参加者の継続の割合は大きな変動がなく約4割が初回で離脱する傾向がある。また性差については女性の方が継続参加するが、死別者との続柄、死別からの期間には有意な特徴は見出せなかった。参加者の志向性は、シェア（感情や体験を共有する）とサポート（何らかの助言や道具的サポートを求める）の二成分に分類されるが、参加回数が増えるにつれてシェア志向が高まった。また1年以上の長期継続参加者の特徴は、家族関係などインフォーマルなネットワークの不調をサポートグループといったフォーマルなネットワークによって補完しようというものであるが、参加頻度（集中型、頻繁型、空白型）と志向のプロセスの観点（積極的アイデンティファイ型、消極的アイデンティファイ型、不安定型）でさらに9つのタイプに分類される可能性が考えられた。自死遺族支援においてはこうした特徴を十分に理解した上で支援のマッチングが求められるだろう。

### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計2件）

- ④ 良原誠崇、自死遺族を対象とするサポートグループの実践とその特徴：参加者のグループの志向と継続動向から、コミュニティ心理学研究、査読有、12(2)、2009、117-128
- ⑤ 良原誠崇、DV被害者の相談および生活指導業務従事者を対象にした継続要因尺度の開発とメンタルヘルスの関連、心的トラウマ研究、査読有、6、11-19

〔学会発表〕(計 5 件)

- ① 良原誠崇, 心理臨床家はいかにして自死遺族に寄り添えるのか, 日本心理臨床学会第 28 回秋季大会, 2009
- ② 良原誠崇, 牧田潔, 有園博子, 加藤寛, DV 被害者支援従事者を対象にした継続動機尺度の開発とストレス及びメンタルヘルスの関連, 日本トラウマティック・ストレス学会第 9 回大会, 2010
- ③ Masataka Yoshihara, Support group intervention for survivors of suicide in Japan: an analysis of the changes in trend of participation and participant's orientation to the group., 43rd American Association of Suicidology Annual Conference., 2010
- ④ 良原誠崇, 当事者と支援者の間に立つ自死遺族支援研究のまなざし, 第 18 回日本ホスピス在宅ケア研究科胃全国大会
- ⑤ 良原誠崇, 心理臨床家はいかにして自死遺族に寄り添えるのか, 日本心理臨床学会第 29 回秋季大会, 2010

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況(計◇件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

良原 誠崇 (YOSHIHARA MASATAKA)

畿央大学・教育学部現代教育学科・助教

研究者番号： 00514134

(2) 研究分担者  
( )

研究者番号：

(3) 連携研究者  
( )

研究者番号：